

科目名称:	キャリア概論	
担当者名:	矢澤 建明、若月 博延、坂上 牧子、小原 慎平、三藤 加代子	
区分	授業形態	単位数
基礎教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
<p>本演習は、初年次教育と職業理解を組み入れたプログラムで、入学目的の確認、基本知識のセルフアセスメント(自己評価)などの自己理解、職業理解・職業設計、他人との協力方法などのグループワークを行うものです。「自己理解」では、自分に不足していることを確認し、「職業理解・職業設計」では、自分の興味関心・適性・価値観に基づいて将来ビジョンを描きます。また、社会人基礎力(前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力)を伸ばしていくことも目的としています。そのため、体育祭等の課外行事で他者と協力することも積極的に奨めます。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>自己分析結果と職業理解から各自の進路を模索し、各自に最適なフィールド・ユニットを選択できるよう導きます。また、大学生として、グループワークなどで他人との協力方法など、社会人基礎力を修得することが目標です。</p>		

基礎教育科目	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP (1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し他者との信頼関係を築いていくことができる。	○
DP (2)	様々な課題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	
DP (3)	専門的な知識や技能を修得し、それぞれの分野において、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP (1)			80	20	100
全学DP (2)					0
全学DP (3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容 (内容・経験年数を記載)	
なし	《内容 1》	《経験年数 1》
	《内容 2》	《経験年数 2》
	《内容 3》	《経験年数 3》
	《内容 4》	《経験年数 4》
備考		
<p>特殊な事情により、対面授業ができない場合、「オンライン上で映像を視聴してもらう」、「テキストデータ・画像データを使って学生からの授業内課題・次回まで課題を提出する」、「学生同士がテキストベースで質問・議論しあう」という、教室外での授業実施を行うことがある。</p>		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
自己理解	自己評価（セルフアセスメント）を的確にすることができる。	自己評価（セルフアセスメント）をすることができる。	自己評価（セルフアセスメント）をなんとなくすることができる。	自己評価（セルフアセスメント）を正しくすることができない。
職業理解・職業設計	自己理解を元にどのような職業に向いているか、あるいは就きたいかを考えることができる。	自己理解を元に、どのような職業に向いているか、を考慮することができる。	自己理解はできるが、自分に向いている職業を考慮することができない。	自己理解がままならないため、自分に向いている将来を考慮することができない。
授業への積極的関与	授業規律を守り、かつグループワークでは積極性がある。	授業規律を守っているが、グループワークでは積極性に乏しい。	グループワークでの積極性はあるが、授業規律を守らない時がある。	

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回 オリエンテーション：金城大学短期大学の沿革と教育目的。授業ガイダンス（大学での学び方、これからのキャリアを考える、今後の予定など）	シラバスを熟読して授業全体の概要を把握しておく。	10分
第2回 アクティブラーニングの基本：グループワーク（合宿研修）。	アクティブラーニングについて調べておく。	20分
第3回 インターンシップ座談会	インターンシップについて調べておく	20分
第4回 シャイニーリーダー座談会	金城大学短期大学のシャイニーリーダーについて調べておく	20分
第5回 入学目的の再確認。将来の自分について考える。	入学目的・将来なりたい自分について書き出しておく。	30分
第6回 セルフアセスメント（自己評価）：「コミュニケーションスキル」、「基本マナー」、「文書作成スキル」、「ITスキル」	コミュニケーションスキル、基本マナー、文書作成スキル、ITスキルの自己習熟度について考えてまとめておく。	30分
第7回 キャリアデザインの基礎：キャリアマップの作成と持ち味リスト	自分の興味のある項目について考えてまとめておく。	30分
第8回 前半期のふりかえりと今後のキャリア形成プランの作成。今後の目標・計画を立てる。	これまでの授業内容をふりかえてまとめておく。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリントをまとめること。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。
定期試験はありませんが、第3回と4回の間で自己診断字刀テストⅡ：数字・国語を実施します。テスト結果で基準に満たない場合は、特別講座を受講しなければなりません。そのほか、レポート・授業内課題80%、授業への貢献・積極的関与および課外行事を20%で評価します。

課題に対するフィードバック

授業内で提出したレポートについて、評価し返却します。

教科書・参考書

必要な資料等はその都度配付します。